

生活

Let's try! 早稲田の英語



今日は「名前」にちなんだ面白い英語表現をいくつか紹介しよう。

例えば、ジョン・ハンコック。これは米国独立革命の名高い指導者の名前。ところが米国では、相手に署名を求めるときにも、彼の名がよく登場する。例えば「Put your John Hancock here.」といえ、



名前

「ここに署名してください」という意味。かの有名な独立宣言に署名した際、ハンコックの署名が他と比べて群を抜いて大きかったため、このような表現が生まれた。目立ちたがり屋は嫌われそうだが、個性的な人物に寛容な米国らしいエピソードだ。

John Doe「名無しの権兵衛」

ソードだ。

また、John Doe (女性ならJane Doe) といえ「名無しの権兵衛」。書類の記載例などでも時折、目にするので、さしずめ山田太郎(花子)といったところか。「平均的市民」という意味でも使われる。

例えば、Meet John Doe (邦題「群衆」1941年)という名作映画の題名にもなっている。ちなみにこの映画、名優ゲーリー・クーパー演じる名もなき市民と、私利私欲を求める権力者の対決がテーマ。見ておいて損はない、オスズの作品だ。

名前といえ、私も米国にいたとき多少苦労した。「ツヨシ」という私の名前、米国では「ツ」の発音がままならぬ人が多いのだ。自己紹介のたびに発音指導したが、しまいに面倒になり、「ツ」は省略して「ヨシ」と呼んでもらうことにした。するとどうだろう。呼ばれる度に「よし」とほめられているようで、悪い気はしない。われながら、うまい呼称を付けたものだ。

皆さんも、海外で生活するときには都合のよい名前を自分につけてみては? (早稲田大教育学部准教授 石原剛)

肺動脈性肺高血圧症

心臓から肺に血液を送る肺動脈の細い血管部分の血液の流れが悪くなり、肺動脈の血圧が上昇し、心臓の右心室の負担が高くなって心不全に至る難病。症状としては、息切れや倦怠(けんたい)感などが伴う。発症原因ははっきり分かっておらず、複数の治療薬が登場しているが、根治は難しいとされている。患者数は国内で推定8000人程度で発症率も低い。

年月	薬局	金額
19年11月	薬局	5,543,880円
1日	20-01	3814599
19年12月	薬局	5,543,880円
1日	20-02	3816315

肺動脈性肺高血圧症の患者の医療費の明細。1カ月に500万円以上の薬代がかかっていることが分かる (PAHの会提供)

米で医師の処方を受け、並行輸入でフロランを入手。1カ月の薬代は100万〜200万円とかなりの負担だったが、平成13年に生体肺移植に踏み切るまで、フロランで命を保つことができた。11年には日本でも使用が認められたフロラン。PAHが難病に指定されているため、患者の金銭的負担は抑えられている。患者の負担が少なければ問題は無いはずと思いきや、薬価の高さが思わぬ事態を引き起こした。

月に500万円

同会によると、フロランの1カ月の薬代は500万円を超えるケースもしばしば。中には700万円を超えることもある。1カ月500万円としても、在を知らされた。米で医師の処方を受け、並行輸入でフロランを入手。1カ月の薬代は100万〜200万円とかなりの負担だったが、平成13年に生体肺移植に踏み切るまで、フロランで命を保つことができた。11年には日本でも使用が認められたフロラン。PAHが難病に指定されているため、患者の金銭的負担は抑えられている。患者の負担が少なければ問題は無いはずと思いきや、薬価の高さが思わぬ事態を引き起こした。

薬高額…健保組合の財政直撃

肺動脈の血圧が上がり、進行すれば心不全で死亡する恐れのある肺動脈性高血圧症(PAH)。発症原因が不明で根治が極めて難しいうえ、患者は思わぬ壁にぶつかっている。治療に効果的とされる薬の価格が高額。難病のため患者負担はほとんどないが、健康保険組合が費用負担を嫌って脱退を促めるケースなどがあるという。命を維持する薬を必要量使えないという事態に、患者や家族でつくる団体は問題解決を訴えている。(森本昌彦)

患者団体が問題解決訴え

「余命6カ月」。長女に話を聞かれないよう、診断した



最新の医療情報などを知るため、PAHの会が年1回開いている全国大会。平成19年10月、東京都内(同会提供。一部画像処理しています)

難病の肺動脈性肺高血圧症

「家族が死ぬ」

医師からこんなメモを示された。ほかの病院での診断は同じ。あきらめきれず、米国に住む親戚に相談したところ、現地で認可されたばかりの「フロラン」という薬の存在を知らされた。

年間6千万円。あまりに費用がかかるため、同会の会員の中には健保組合の財政が破綻するとして、組合からの脱退を求められた人もいたという。さらに、フロランを使用した病院が健保組合に費用を請求したところ、そんなに使った必要はないとの査定を受け、病院が不足分を負担したケースも報告されている。

このため、病院によってはフロランの処方をやめた。治療に必要な量を投与しなかったりといった問題が起きているという。村上さんは「そういうことを知らないで亡くなっていく患者もいる。声を上げないといけないんです」と事態の改善を求めた。

手作りティータイム

- ① 製菓用チンでポウルにかけて溶
- ② ラムレー
- ③ アーモン
- ④ は、それ
- ⑤ マシユマ
- ⑥ ①に②③
- ⑦ で混ぜ合
- ⑧ パウンド
- ⑨ ・5粒に

ドライ克蘭ベリー、

ちょっぴりおしゃれに
チョコレートリッチバー